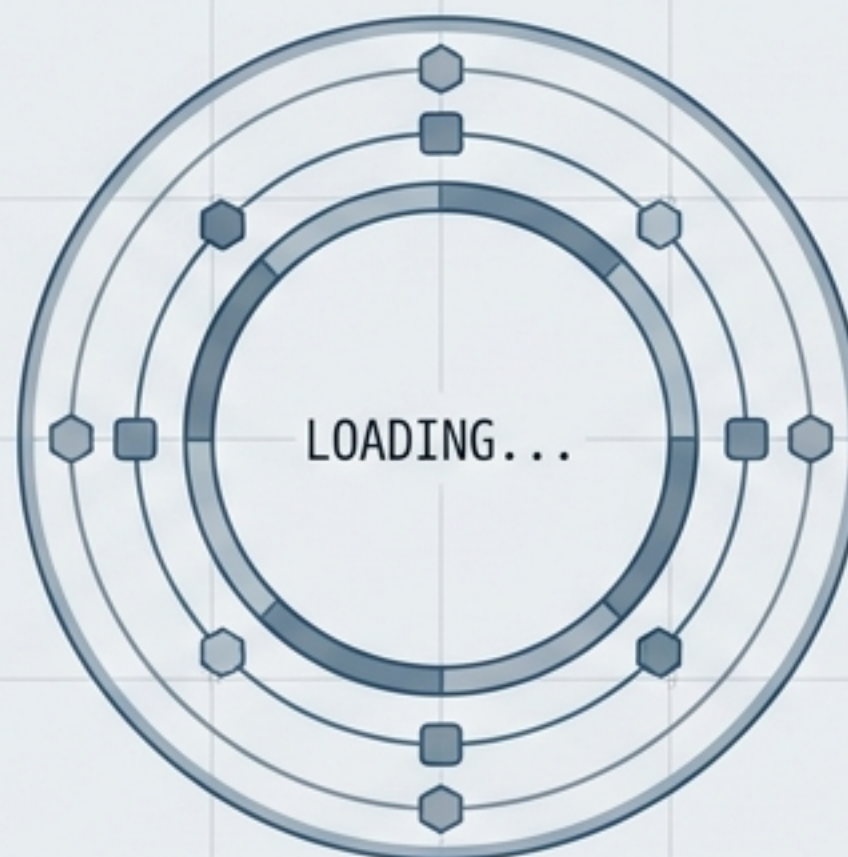


STATUS: INITIALIZING...

TIME: 14:32:01 UTC

TK MAX 金融・経済レポート：ロシア・ダッシュボード解析

現状の構造的変化と2030年以降のリスク・シナリオシミュレーション



[SYSTEM: INDEPENDENT NON-PROFIT SIMULATOR]

[DATA: ROSSTAT, UN DESA, WORLD BANK, UNODC]

[-0, 0-]

[-0, 41 UTC

シミュレーター・アーキテクチャ：2つのフェーズ

STATUS: ACTIVE

MODULE: ACT1.DAT

ACT 1: 現状 (Status Quo)

• 対象期間：2000年～2026年 [T:2000-2026]

• データ性質：公表統計および確認された事実 [TYPE: CONFIRMED DATA]

• 分析対象：人口動態、所得と税制、治安・地政学、戦時経済の定着 [FOCUS: DEMO, ECON, GEO, WAR]

STATUS: PROJECTION

MODULE: ACT2.SIM

ACT 2: 将来シナリオ (Event Horizon)

• 対象期間：2030年以降 [T:2030+]

• データ性質：起こり得るリスクの確率的シミュレーション (断定的な予測ではない) [TYPE: PROBABILISTIC SIM]

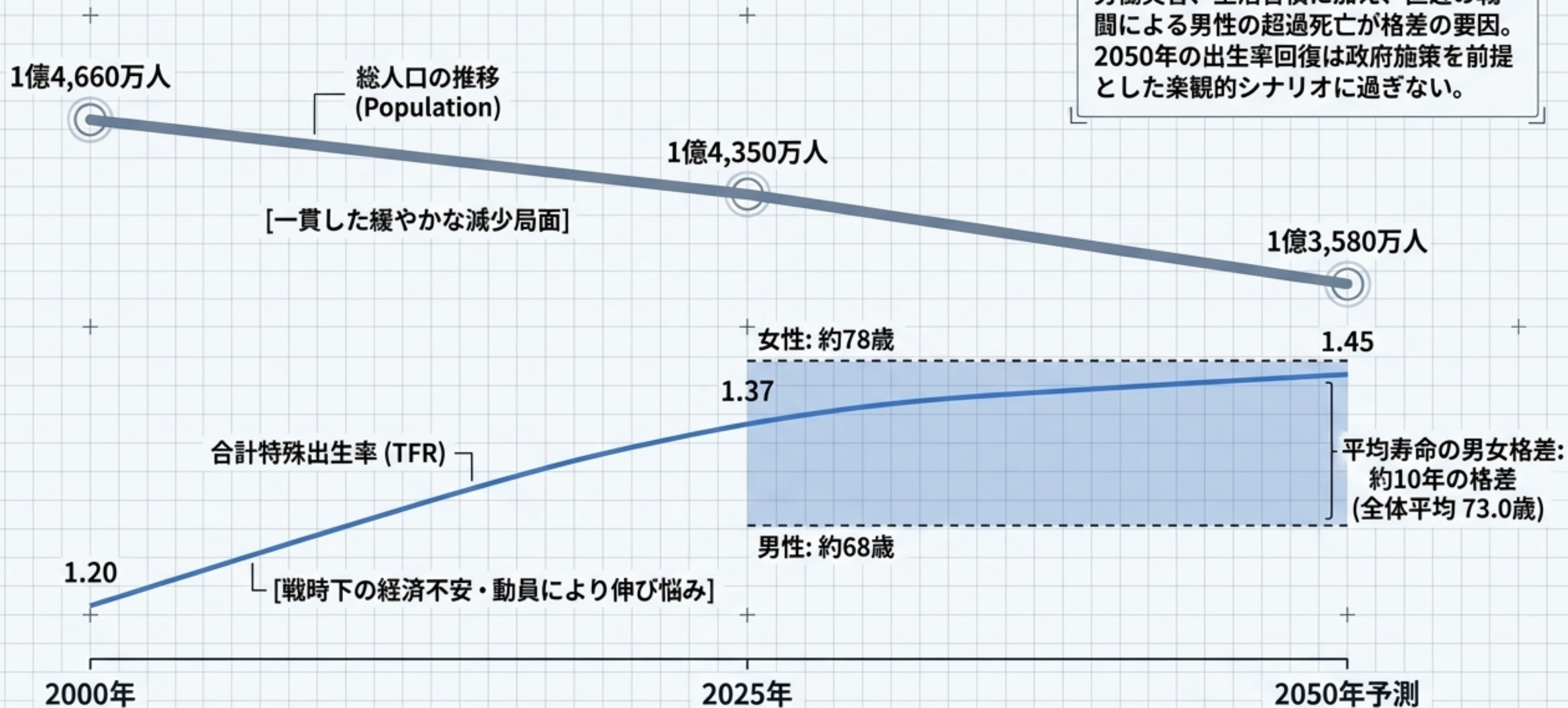
• 分析対象：ジリ貧、インフラ老朽化、軍需バブル崩壊の3大リスク [FOCUS: DECLINE, INFRA, BUBBLE RISK]

※本ダッシュボードは特定の政治的立場を推奨するものではありません。独立・非営利のシミュレーターとして、中立的かつ合理的なデータ分析のみを提供します。

基礎構造の変容：人口動態の複合的圧力

Diagnostic Note

労働災害、生活習慣に加え、直近の戦闘による男性の超過死亡が格差の要因。2050年の出生率回復は政府施策を前提とした楽観的シナリオに過ぎない。



税制の構造転換：フラットから累進・増税へ

【～2024年体制】

フラットタックス方式（一律税率13%）。シンプルな税制による経済活性化が目的。

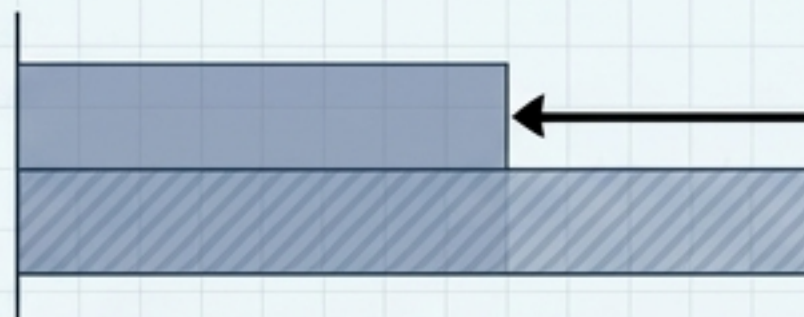
【シフト要因】：
財政悪化、戦費調達圧力、
および格差是正の必要性。

【2025/2026年以降～体制】

累進課税の導入（所得に応じた税率引き上げ）
＋
付加価値税（VAT）の22%への引き上げ。

Income Reality Panel

2025年時点の平均月収：
75,000～85,000ルーブル

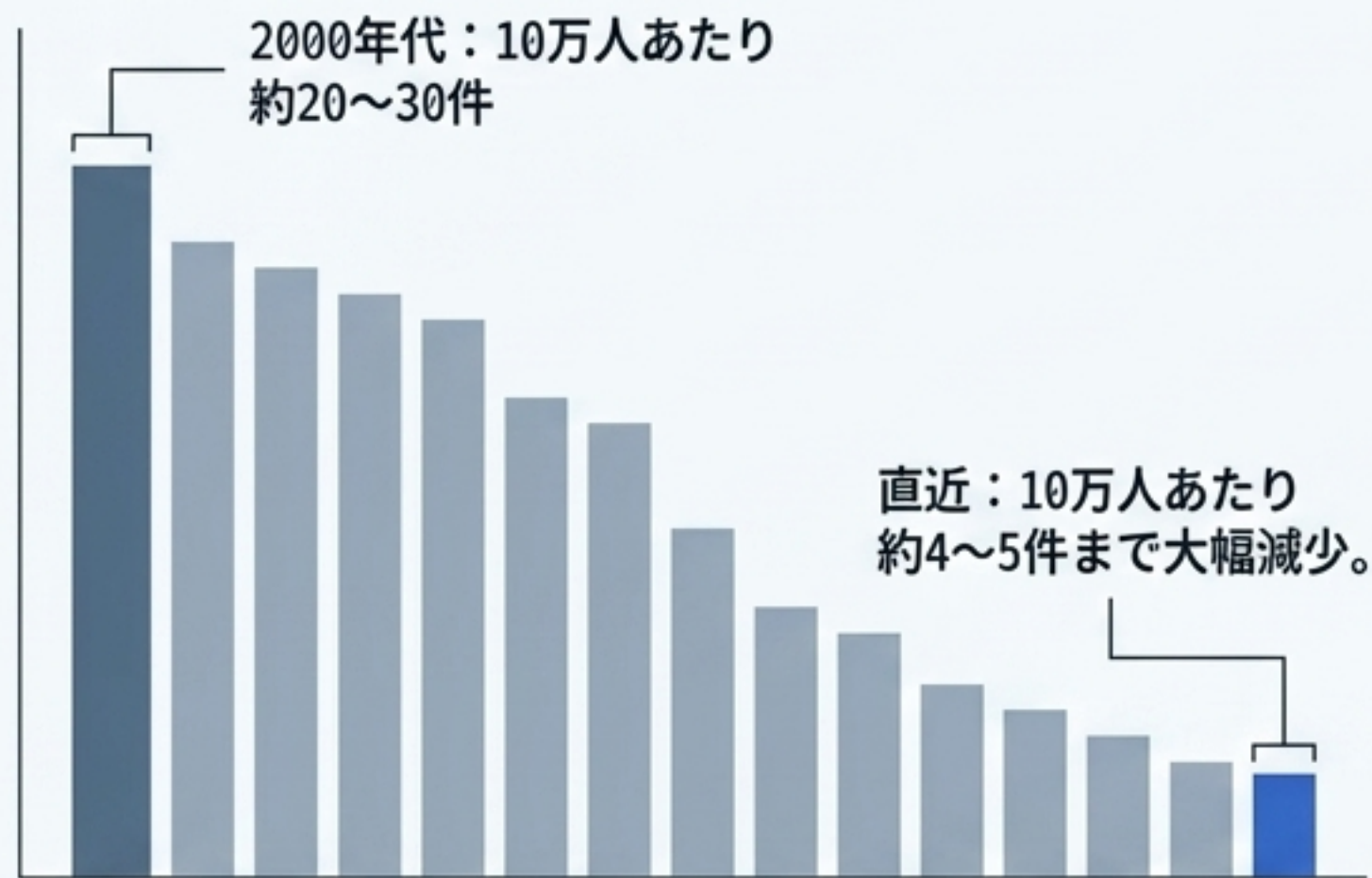


モスクワ等の都市部と地方では
「2倍～3倍」の所得格差が内在。

治安の推移と地政学リスクの増大

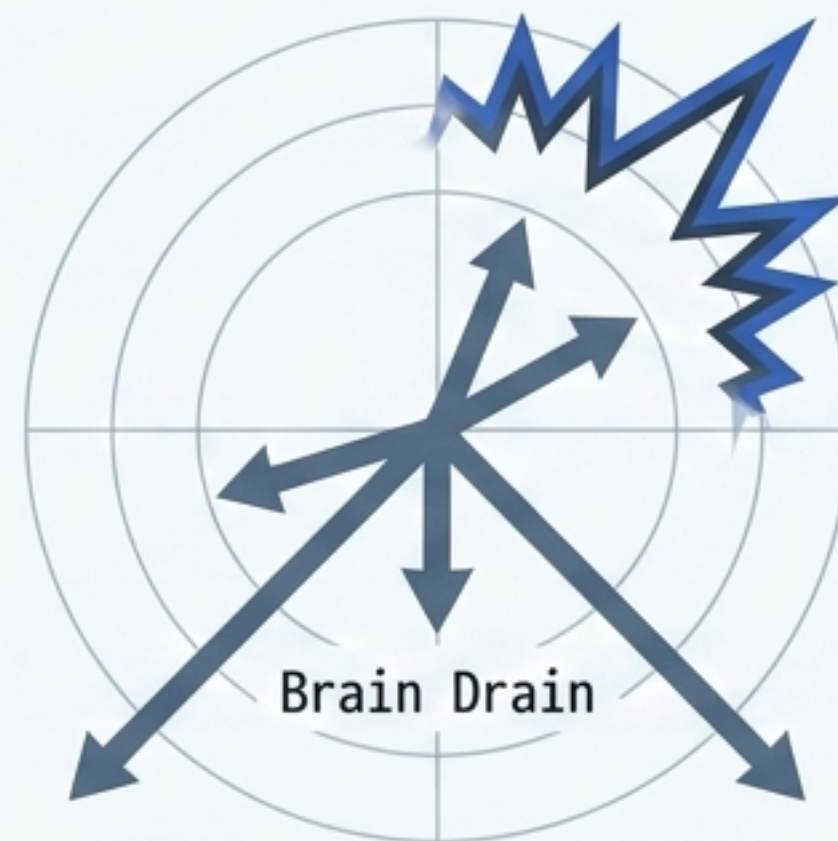
[MODE: ANALYTIC]
[T: 2000-2025_SIM]

殺人率の推移 (Internal Security)



[システム注記]: 大幅改善したものの、依然として先進国水準と比較すると高止まり。

地政学的リスク (External Pressure)



- EU・NATO加盟国との緊張・衝突リスクの慢性化。
- [影響ベクトル]: この緊張が、若年層の流出（頭脳流出）や動員といった「人口動態・経済への負のフィードバック」のトリガーとなっている。

「戦時経済化」の定着：予算のクラウドディング・アウト

[MODE: ANALYTIC]
[T:2000-2025_SIM]

NATIONAL BUDGET STRUCTURE

国防費・軍事支出：
国家予算の約 30% ～ 40% を占有。

インフラ投資

教育予算

医療予算

圧迫される領域

System Assessment (現状の評価)

状態： 「戦時経済化
(Wartime Economy)」

診断： これらは一時的な緊急措置ではなく、
ではなく、2025年～2026
—年時点において「すで
に完全に定着した構造」と
してシステムに組み込ま
れている。他分野の予算
が慢性的に圧迫される
フェーズに移行。

労働供給の構造的枯渇：深刻な人手不足メカニズム

[T: 2000-2025_SIM]

[MODE: ANALYTIC]

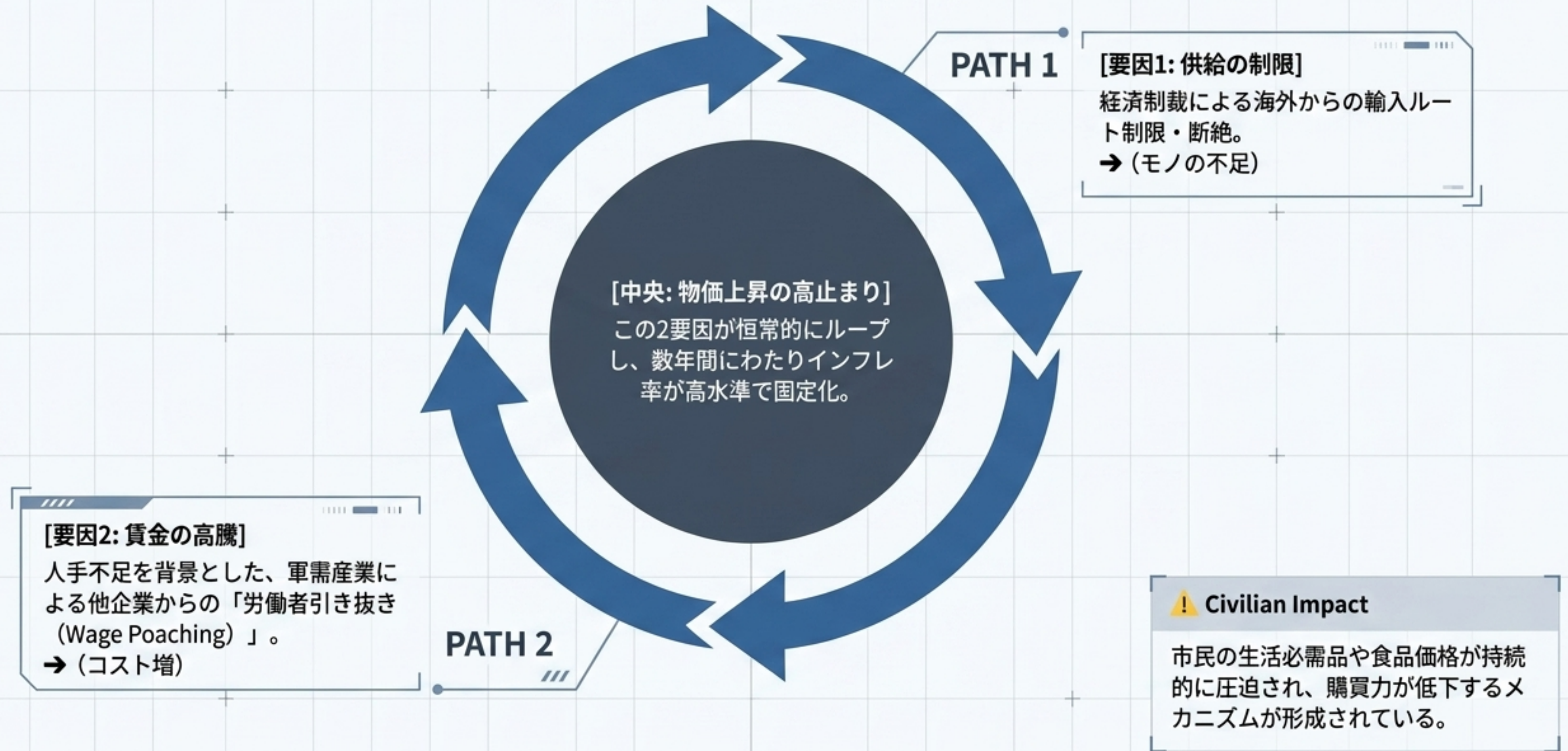


Diagnostic Note

物理的な人口減少に、専門人材の流出が重なることで、産業の維持能力そのものが低下している。

戦時インフレのフィードバック・ループ

[MODE: ANALYTIC]
[T:2000-2025_SIM]



ACT 2: イベント・ホライゾン (2030年以降の未来予測)

現状のトレンドが継続した場合に想定される「3つのリスク・シナリオ」

2000 - 2026

[▲ EVENT HORIZON ▲]

2030+

[MODE: SIMULATION]

【将来シナリオ (Future Scenarios)】

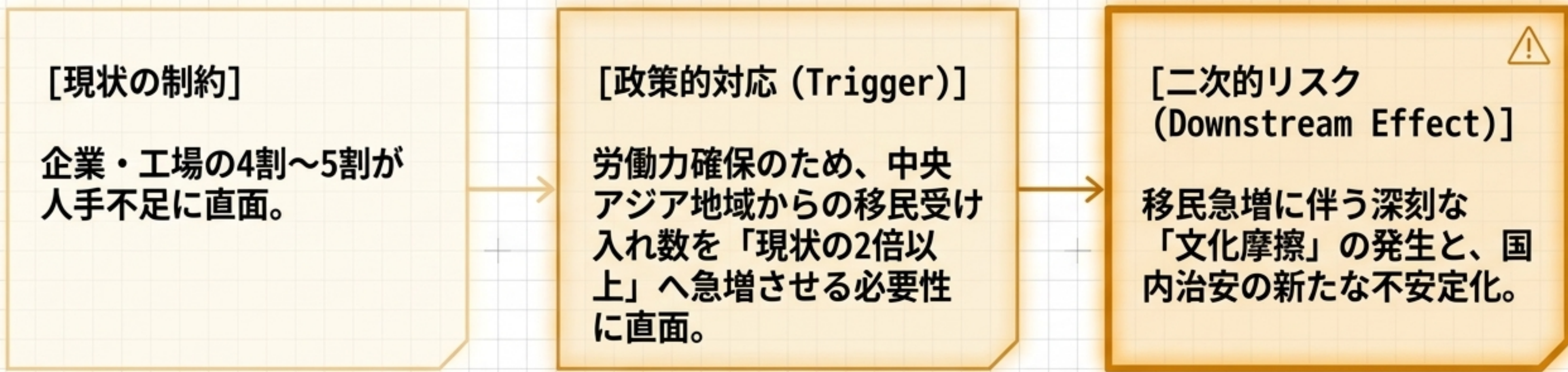
これ以降のデータは、断定的な予測ではありません。現状の構造的ストレス（労働力不足、インフラ圧迫、軍需依存）が臨界点を越えた場合に起こり得る論理的帰結（リスク確率）のシミュレーションです。

[STATUS: WARNING]

[MODE: SIMULATION]

[T:2030-FUTURE_SIM]

シナリオ①：労働力不足の慢性化による「経済のジリ貧」



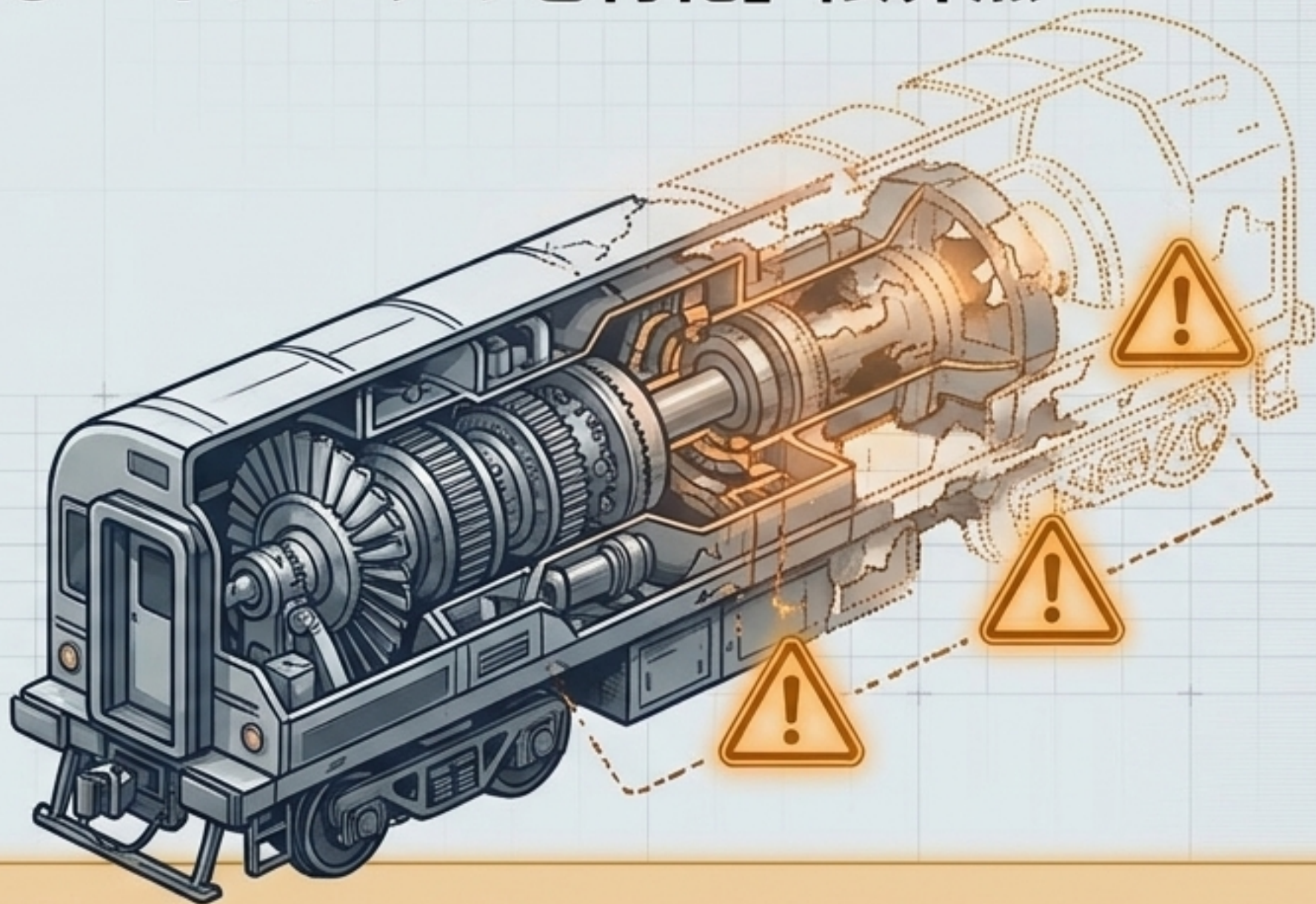
Scenario Conclusion

労働力補填のコストが社会保障・治安維持コストを上回り、経済全体が緩やかに衰退していく「ジリ貧」状態への移行。

シナリオ②：緊張長期化による「インフラの老朽化」限界点

Decay Mechanism (劣化メカニズム)

- ・[前提] 西側諸国 (EU・NATO) からの半導体・精密機械の輸入が完全停止状態。
- ・[時間経過による劣化] 数年以内に、代替不可能な部品・技術の不足が蓄積。
- ・[対象セクター] 航空機 (民間旅客機)、鉄道網、発電所などの大規模インフラ。



Risk Realization (リスクの顕在化)

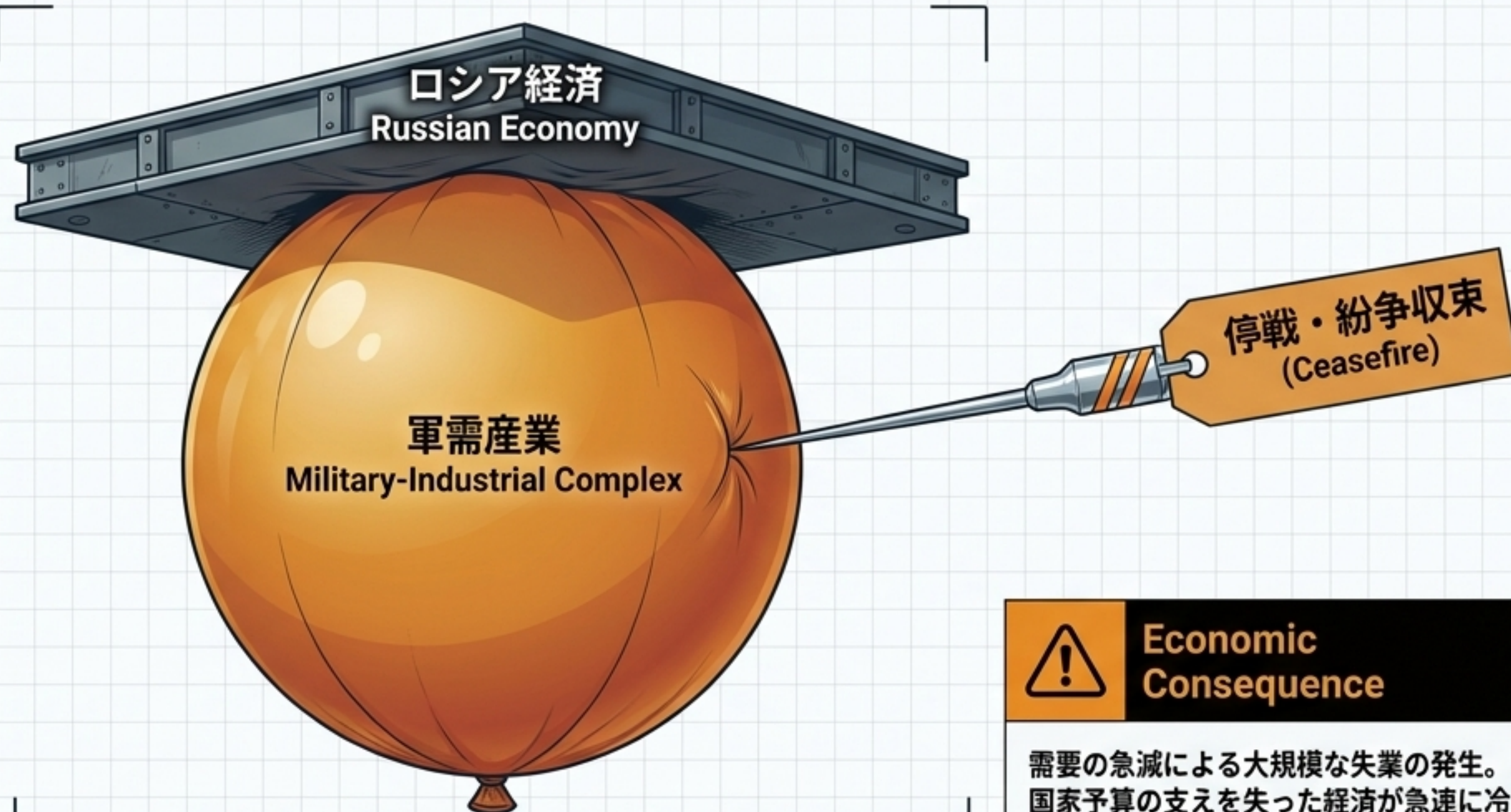
既存の設備が更新・保守できないまま「メンテナンスの限界」を迎える。結果として、大規模な事故の発生や、物流・電力供給の物理的な機能停止リスクが飛躍的に増大する。

シナリオ③：「戦後」に訪れる経済の反動（軍需バブル崩壊）

[MODE: SIMULATION]

The Metaphor Explained

- [現状の構造]
高い賃金と国家の旺盛な需要を持つ「軍需産業」が、実質的にロシア経済を下支えしている（バブル状態）。
- [トリガー条件]
将来、紛争が収束、または凍結（停戦など）した場合。
- [バブルの崩壊]
経済を無理やり回していた軍事製造業への需要が一気に消滅。



シナリオ・シンセシス：3大リスクの構造的帰結

[MODE: SYNTHESIS]
[STATUS: CRITICAL]

シナリオ①（ジリ貧）	シナリオ②（インフラ不全）	シナリオ③（戦後恐慌）
[Row 1: Trigger Condition (発生条件)]		
労働力不足の慢性化	西側制裁・輸入停止の継続	紛争の収束・凍結（停戦）
[Row 2: Downstream Risk (直接的リスク)]		
移民急増による文化摩擦・治安悪化	部品枯渇によるメンテナンス限界	軍事製造業への国家需要の急減
[Row 3: Economic Consequence (マクロ経済への影響)]		
The Slow Grind (緩やかな衰退コスト)	The Infrastructure Failure (物理的機能の停止)	The Post-War Crash (大規模失業と軍需バブル崩壊)

Diagnostic Insight

「戦いが継続しても（①②）、終結しても（③）、すでに組み込まれた構造的ダメージにより、
いずれかの重大リスクへの直面が避けられないシステム状態にある。」

総括と免責事項 (System Conclusion & Disclaimer)

[Statement of Objectivity]

本ダッシュボードは、現状の統計データ（人口・所得・治安）から導き出される構造的変化と、将来起こり得る論理的シナリオを抽出したものです。和平交渉の進展、経済政策の転換、代替供給網の確立などなどにより、シナリオの前提条件は常に変化し得ます。

[Data Provenance]

記載の数値および割合は、ロシア連邦統計局（Rosstat）、国連人口部（UN DESA）、世界銀行等の公開情報・推計に基づくものであり、公式な確定値ではありません。

[Simulator Stance]

我々は独立・非営利のシミュレーターとして、特定の政治的立場を推奨・支持する意図は一切持ちません。厳密なデータに基づく客観的視座のみを提示します。

[SIMULATION COMPLETE]